



—湾岸・アラビア半島地域ニュース—

イラン経済 (1月8日～10日)

1. 原油輸出量に関する石油省報道官の発言 (9日付イラン・ニュース紙)

石油省のラフバル (Alireza Nikzad Rahbar) 報道官によると、イランの原油輸出量が40%、石油収入が45%それぞれ減少したことを石油省が認めたとするカーテブ (Gholam-Reza Kateb) 国会予算委員会報道官の発言内容を否定した。カーテブ報道官は同内容をガーセミー石油大臣の発言として述べていた。中国、日本、韓国、インド、トルコなどのイラン産原油輸入主要国は、2012年に輸入量を15～40%減少させたとされている。

2. 密輸用パイプラインの発見 (8日付アブラーレ・エグテサーディー紙)

石油省のゼイガーミ一次官は、複数の密輸用パイプラインがペルシャ湾で発見されたと述べた。同次官は、「燃料および石油製品の密輸を取り締まるための特別作業部会が調査した結果、不当利益を狙う者らが地下パイプラインを用いて海外に大量の石油製品を密輸している。防止策として軽油とガソリンの価格を上げる必要がある」とした。2011年に減少したものの、昨今のリアル下落の影響により、この数カ月間、燃料及び石油製品の密輸が増加しているとされていた。

3. トルコによるイランとの金取引継続 (10日付ケイハーン・インターナショナル紙)

トルコの銀行は、米国からの圧力が続く中、現在もイランとの金取引を継続している。トルコからイランへの金の輸出量は、2011年にはわずか5,400万米ドルであったが、2012年には11カ月間で65億米ドルに上った。最大のイラン産ガス輸入国であるトルコは、制裁の影響により、米ドルおよびユーロでの支払いが出来なくなったため、トルコ・リラで支払い、イランはその原資をトルコ国内で金と交換している。

4. 燃料不足による航空便の遅延や欠航 (8日付ハムシャフリー紙)

7日、航空会社側がかつてより延滞してきた燃料費の支払いを拒否したとして、NIOPDC (National Iranian Oil Products Distribution Company, イラン国営石油精製販売会社) が新規の航空燃料供給を停止した。これを受けて、イラン全国の多くの航空便が燃料不足により大幅な遅延や欠航となり、テヘラン、マシュハド、キーシュ等、多くの主要都市の空港で乗客が立ち往生した。しかし、航空会社とNIOPDCとの交渉により、同問題は7日夜のうちに解決した。

5. 2012 年末のインフレ率（10 日付ケイハーン・インターナショナル紙）

イラン中央銀行は、2012 年末におけるインフレ率は 27.4%であると公表した。また、イランの貿易額（非石油分野の輸出入）については、2012 年 3 月から 3 カ月間で 730 億米ドルに達し、うち、イランへの輸入額は前年同期比 8%減の 420 億米ドルとなった。

6. 米ドル取引量の減少（9 日付イラン・ニュース紙）

米国および EU による制裁の影響で、為替センターでの米ドル取引量が次第に減少していると、為替センターのキャリーミー報道官が述べた。また、取引は主にアジア諸国と行われていると付け加えた。

7. 財政収支における赤字額（8 日付ジヨムフーリーイエ・エスラーミー紙）

大統領府により国会に提出された報告書によると、ヒジュラ太陽暦（イラン暦）1390 年（西暦 2011 年 3 月 21 日～2012 年 3 月 19 日）の財政収支は 287 兆リヤルの赤字であった。1390 年の一般会計予算歳入は、税収が全体の 23.8%、石油および石油化学製品収入が 33.7%、政府系企業株式売却益が 17.1%、外貨準備からの充当が 6%、政府機関からの株式配当が 5.2%、その他収入が 8.9%となっている。

8. テヘラン―北京便の再開（10 日付イラン・ニュース紙）

イラン航空のテヘラン―北京便が再開された。2012 年 11 月に旅客数低迷のため、一時運行停止となっていた。イラン航空は 11 月 6 日から、航空券価格を平均約 65%値上げしていた。